

2023 年度 JIA 東北支部運営・活動方針

公益社団法人 日本建築家協会 東北支部長 進藤勝人

会員の皆様に於かれましては、日頃より JIA の会員として建築家として、支部活動、復興支援・まちづくり支援、さらには業務を通しての社会貢献に対し敬意と感謝を申し上げます。

コロナ禍が招いた需給の逼迫、ウクライナ危機による燃料の高騰、少子高齢化による人材不足など、様々な要因により工事費が高騰しています。設計においても、工事实現のための様々なアイデアが求められるようになりました。又、ZEB や BIM といった新しい技術も本格的に始まろうとしています。今年度も講習会や勉強会を開催し、より良い設計のために、努力して行きたいと思っています。

昨年は、人々の活動も活発になり、3年ぶりに様々な活動が行われるようになりました。

JIA 東北支部の活動も久しぶりに、多くのイベントを行うことが出来ました。東日本大震災10年企画では、プロローグ・メイン・エピローグイベントの3部作で行い、メインイベントでは、JIA 8支部から50名の会員が集まり、復興の現状を視察することが出来ました。防潮堤、新しい商店街、高台移転の住宅地、震災遺構、福島原子力発電所を視察し、それぞれに思いが溢れる視察となりました。

又、6年ぶりの支部大会を山形で行い山形の歴史や風土を感じて頂きました。

今年の JIA 東北支部の活動は、東日本大震災10年企画パート2を行いたいと思います。昨年は、復興の現状を見て頂き、復興がもたらす課題について話合いました。パート2では、今後の災害を見据え建築家がどのように関わって行くべきか考える良い機会としたいと思います。

又今年度は、JIA 東北支部会員による建築展を開催したいと思います。建築展の開催は、東北6県、持ち回りで行う予定です。各県開催で東北の建築家の紹介、建築家の作品を紹介し、東北の建築家を知って頂く良い機会としたいと思います。

その他、建築家・設計事務所の「業務改善・設計者選定（コンペ・プロポ、入札・最低制限価格、多様な発注方式、発注者責任）・設計報酬」への取り組み、「魅力ある職場、働き方改革」への取り組み、「AI・BIM・IoT」などの技術革新への取り組み、会員の減少、高齢化などの問題を抱える「JIA の組織」の在り方などの課題への取り組みを引き続き進めていきたいと考えます。

今年の活動のテーマは、4つあげたいと思います。昨年に引き続き「縮小する社会の中での建築の在り方について考える」「コロナ禍の建築の在り方について考える」「2050カーボンニュートラルについて考える」その他「東北の建築家を知って頂く」今避けてとおれない課題について話し合っ行って行きたいと思っています。

2023 年度 主な骨子 「縮小する社会の中での建築の在り方について考える」
「コロナ禍の建築の在り方について考える」
「2050カーボンニュートラルについて考える」
「東北の建築家を知って頂く」

1. 「建築の在り方」 今年の4つのテーマについて講習会や話し合いを行う。
2. 「復興」 東日本大震災10年企画パート2を行う。
今後の震災を見据え建築家がどう関わるべきか話し合いを行う。
3. 「地域会」 各地域で行われる公益的地域会活動が支部活動の主体であることを引き続き、定着させ、その活動が円滑に進められるよう支援します。
4. 「会員」 「正会員・準会員（専門会員・シニア会員・ジュニア会員・学生会員）・協力会員」の入会促進と「登録建築家」への登録促進。
5. 「事業」 第15回東北住宅大賞2023の開催、第27回東北建築学生賞とテクニカルセミナーの開催。
東北6県持ち回り建築展の開催
6. 「会員交流」 「JIA 建築家大会」を通して全国の会員、海外の建築家協会との交流促進。
7. 「行政他団体」 東北公共建築設計懇談会・建築設計関連団体サミットや他の会議体を通して、行政・事務所協会・士会・学会・建設業協会等との協力・連携を強化し、行政への業務改善やまちづくりに対しての要望などを展開する。